

2025

久野営農経済センターだより①



3月

久野営農経済センター営業時間について

3月31日(月) 8:40~12:00まで。以降は決算棚卸のため休業となります。

4月1日(火) 午前休業、13:00より営業となります。

大変ご不便をお掛け致しますが組合員をはじめご利用者皆様のご理解、ご協力を賜ります様
お願い申し上げます。

【温州みかん】

施肥 3月中下旬

○特選みかん配合 655 160kg/10a 施肥後、軽く中耕を行いましょう。

※特選みかん配合 655 には 微量元素 が含まれています。

数年に一度は微量元素欠乏対策の為、特選みかん配合 655 を使用しまししょう。

石灰資材の施用

○顆粒タイニー 又は 苦土タンカル 200kg/10a

石灰資材をここ数年施肥していない園(又は、1~2月に石灰資材を施用していない園)では、根の活動が低下し、養分の欠乏をひきおこす可能性があるため必ず施用し中耕しまししょう。

尚、春肥とは最低でも2週間以上あけてください。

病害虫防除 3月中下旬

○かいよう病・そうか病対策

病斑のある枝葉は、新葉が出てくるときに感染源となるので、剪定時に取り除いて園内から持ち出し病原菌の密度を低くしまししょう。

○かいよう病

コサイド 3000 1,000倍 100g/100ℓ (クレフノン 200倍 500g/水 100ℓ加用)

※マシン油乳剤と混用散布は避け、近接散布は最低2週間以上あけまししょう。

※温州みかん園に中晩柑類(ネーブル・レモン等)が混植されている場合には防除を必ず行いまししょう。

※この時期に散布できなかった園は4月上中旬にコサイド 3000 2000倍 50g/水 100ℓ

(クレフノン 200倍 500g/水 100ℓ加用) 又はイデクリーン水和剤 500倍 200g/水 100ℓ
(クレフノン 200倍 500g/水 100ℓ加用) を散布しまししょう。

【レモン】

整枝剪定

特に若木は樹勢が強く花芽が付きにくいので、樹勢が落ち着くまでの整枝剪定は、整枝を主体とし、徒長枝や混み合う枝の間引きを軽く行う程度とする。また、花芽が着く春枝の先端は切り返さない。枝は立ち性で太く放置すると高くなるので、枝を下げ誘引する。

樹勢が落ち着いてきたら、徐々に剪定量を増やし、関心自然形にしていくが、樹勢が強いため、過度の剪定は徒長枝が多発し結果しなくなるので注意が必要です。樹幹内の枯れ枝は黒点病防除のため、常に除去するように心がける。

春肥施用 (3月中旬頃)

特選みかん配合 655 160kg/10a 施肥後、軽く中耕を行う。

【中晩柑】

不知火・はるみの剪定

主枝先端を明確にして、直径1cmぐらいのところを切り返し、予備枝(坊主枝)を作り、新梢を発生させ樹勢の維持を行います。

翌年の結果母枝の確保のため、鉛筆位の太さの予備枝(坊主枝)を、垂主枝に対して1本設けましょう。はるみは主枝先端部の切り返しを強めに行い、不知火はやや強めの切り返しにとどめる。はるみ程強く切り返す必要はない。

施肥 特選みかん配合 655 140 kg/10a 施肥後に軽い中耕を行う。

病害虫防除

はるみ・レモン・ネーブル等は、かいよう病に罹病しやすいので、湘南ゴールドの項を参照に防除して下さい。

『デコポン』の名称について

デコポンの名称は、熊本県果実連の登録商標です。「不知火」の果実は糖酸度に関係なく個人販売、JA直売所において『デコポン』の名称で販売できません。

【湘南ゴールド】

選果

湘南ゴールド 階級	2S	S	M	L	2L
横径 (mm)	40~45	46~50	51~55	56~61	62~67
温州みかん 規格	4S	3S	2S	S	M

*規格板は営農経済センターで取り扱い中です

剪定

温州みかんと同じ開心自然型とします。しかし、温州みかん同様の剪定では強すぎるため、主枝や垂主枝を竹などで開張し、逆行枝、側枝の重なり枝の間引き剪定と下垂枝の切り返し程度に控え、樹冠内部に光が入る様にしましょう。

結実し始めた樹は弱剪定で樹形が乱れているので、剪定量を増やし樹形を徐々に改善しましょう。

施肥

 3月中下旬

特選みかん配合 655 140 kg/10a 施肥後に軽い中耕を行う。

収穫後

○かいよう病

ICボルドー66D 100倍 1,000ml/100畝 (アピオンE 1,000倍 100ml/100畝加用)

ムッシュボルドーDF 1,000倍 100g/100畝 (クレフノン 200倍 500g/100畝加用)

発芽前であればアピオンE、クレフノンの加用の必要はない。

※病斑のついた枝は剪定時に園外へ持ち出す。ICボルドー66Dはマシン油との散布間隔は14日以上開ける。

【ジャガイモ】

芽かき 地上部に出た芽が10芽程度に伸びたら、太い茎を2本残し他の茎を根元から取る。(特に春作)

追肥・土寄せ 芽かき後、NK化成 1kg/a を施し、株元に5芽程土寄せする。半月後にもう一度NK化成 2kg/a と土寄せを行う。

※ジャガイモは種イモより上にできるので、イモに日光が当たり緑化しないようにしましょう。

※ただし、生育初期から多くの土を寄せると新しいもの生育が遅れる。

2025

久野営農経済センターだより②

【キウイフルーツ】

施肥 3月中旬

○キウイフルーツ配合 654 100kg/10a (新梢の充実と初期肥大促進を目的)

病害虫防除 3月上旬(剪定後)

○カイガラムシ類 スプレーオイル 100倍 混用

アプロード水和剤 収穫前日 2回 1,000倍 100g/水 100ℓ

3月中旬(発芽前)

○キウイヒメヨコバイ アグロスリン乳剤(劇) 収穫7日前 3回 2,000倍 50ml/水 100ℓ

○かいよう病 ICボルドー66D 収穫後～発芽前 50倍 2ℓ/水 100ℓ

※キウイヒメヨコバイの多発園ではこの時期防除することにより発生を減らすことができます。

【梅】 *下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。

施肥 3月中旬

○梅配合 80kg/10a (樹勢を安定させ着果後の肥大促進を目的)

病害虫防除 3月上旬～3月下旬

○かいよう病 コサイド3000 2,000倍 硬核期まで 50g/100ℓ

(クレフノン 200倍 500g/100ℓ加用)

※この時期のかいよう病防除は重要防除になります。必ず散布し、加工果実を減らしましょう。

3月中旬～下旬

○アブラムシ類 スミチオン乳剤 収穫14日前 2回 2,000倍 50ml/水 100ℓ 又は

チェス顆粒水和剤 収穫21日前 2回 5,000倍 20g/水 100ℓ

○灰色かび病・黒星病 バルクートフロアブル 収穫30日前 3回 2000倍 50ml/水 100ℓ

※灰色かび病の防除適期は落弁期(花びらの80%が散った時期)であるが品種によって開花時期が異なるので状態に合わせて防除する。

<黒星病の防除について>

黒星病の発生が非常に多くなっています! 4月上旬～中旬、下旬、5月上旬の春先の防除が有効になりますので徹底しましょう! 特に、5月上旬の防除をされていない園は、4月の防除に加え今年は必ず防除をするようにしましょう!

4月上旬 デランフロアブル 収穫14日前 2回 2000倍 50ml/水 100ℓ 又は

～ ペンコゼブフロアブル 収穫前21日前 3回 1000倍 100ml/水 100ℓ

4月中旬

4月下旬 ストロビードライフフロアブル 収穫7日前 3回 3,000倍 33g/水 100ℓ

5月上旬 スコア顆粒水和剤 収穫前日 3回 3,000倍 33g/水 100ℓ

*2週間間隔で散布しましょう。

*前年の被害枝は切除しましょう。

【お茶】

施肥

2月下旬

○足柄茶配合 033 3袋/10a

3月中旬

○足柄茶配合 033 2袋/10a

病害虫防除 3月上～中旬

○カンザワハダニ バロックフロアブル 摘採 14日前 1回 3,000倍(33ml/水 100㍓)
又はダニゲッターフロアブル 摘採 7日前 1回 2,000倍(50ml/水 100㍓)

○もち病 ドイツボルドーA 摘採 14日前 500倍(200g/水 100㍓)

4月上中旬

○ツマグロアオカスミカメ多発園

キラップフロアブル 摘採 7日前 1回 2,000倍(50ml/水 100㍓)

【ダイコン】

春まき 3月中旬～4月下旬

畑の準備

苦土タンカルを土になじむよう、播種の半月以上前に畑全体に施し、根が伸びやすいよう、深く耕します。(40㍓以上)

元肥は播種 1週間前くらいに畑全体に施し、軽く土と混和する。

○燐加安 MMB262号 10kg/a

播種 点まき 畦間 60㍓・株間 25㍓ 3粒

農業を使用する際は、適用作物・希釈倍数・使用回数・使用方法等の使用基準を遵守するとともに飛散防止に努め、ラベルをよく確認し、必ずラベルに基づいて使用しましょう。

西湖はるみ米研究会 新規会員募集案内

平成 30 年度に立ち上げたこの研究会は、水稻「はるみ」を品質と食味にこだわって栽培し、研究会ブランド「さかわのめぐみ」の生産・販売に取り組んでいます。

活動内容：勉強会・圃場巡回・土壌診断・定期総会等

募集期間：令和 7 年 2 月 25 日（火）～3 月 24 日（月）

申込方法：最寄りの支店又は営農経済センター（申込書は店舗に用意してあります。）

加入については以下の条件を満たす必要があります。

	必ず取り組む項目		3 つ以上取り組む項目
必須条件	栽培面積おおむね 10a（1 反）以上 種子更新率 100% 圃場ごとの生産履歴の提出・GAP の取り組み 調製は 1. 8mm 以上で行う	選択条件	「土壌診断の実施」 「稲わらのすきこみ」 「堆肥の投入」 「春まで 2 回以上耕耘」 「ケイ酸肥料施用」 「化学肥料を県基準慣行の 30%削減」 「化学農薬を県基準慣行の 30%削減」 「地域の水利に合わせた適期中干し」 「疎植栽培（50 株/坪以下）」 「元肥＋追肥体系」

※詳細は営農経済センターにお問合せください。